

西

263.3

263.3-313



1200501353470

習讀本

旭正秀著



始



263

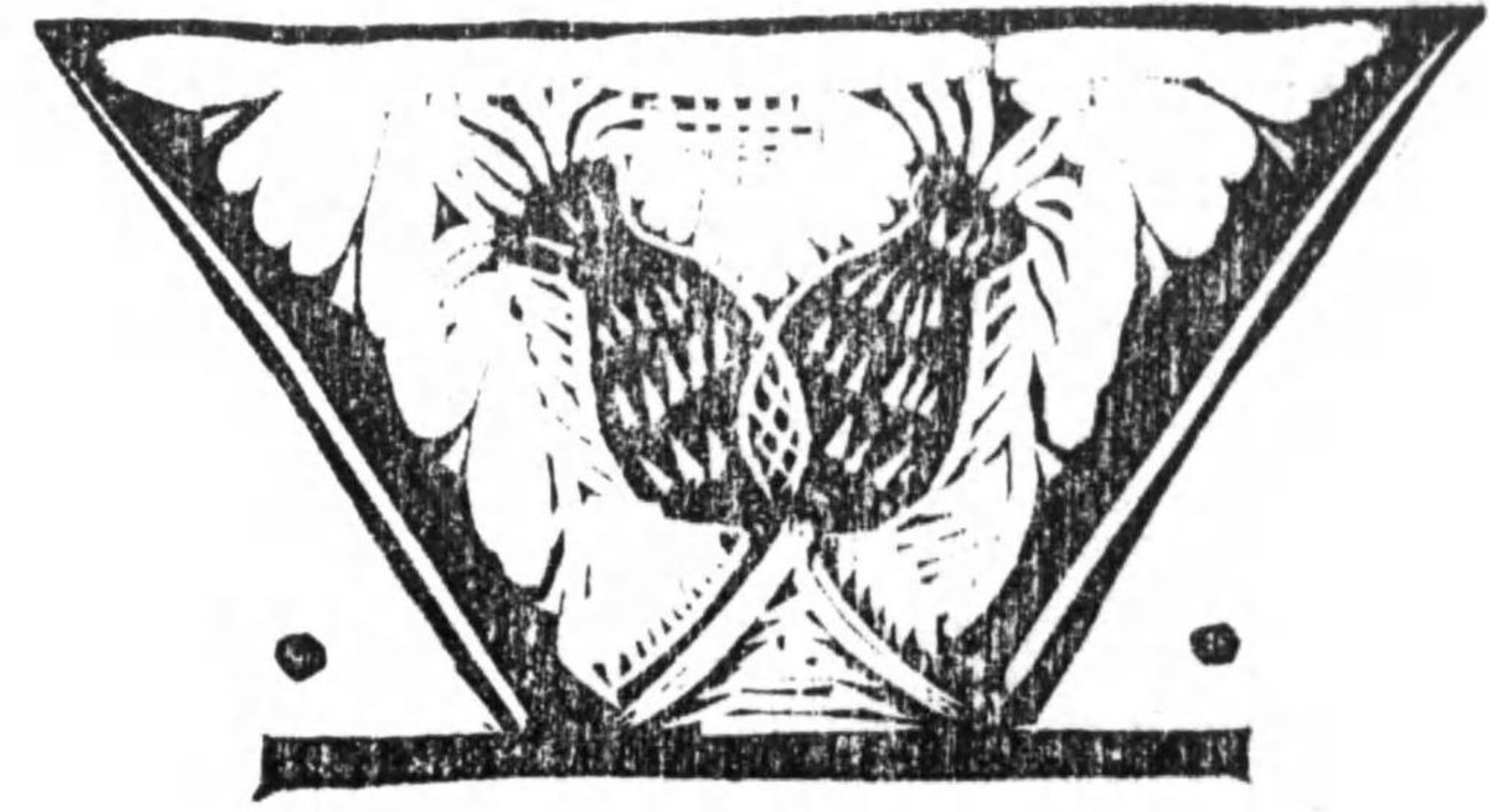
313

旭正秀著

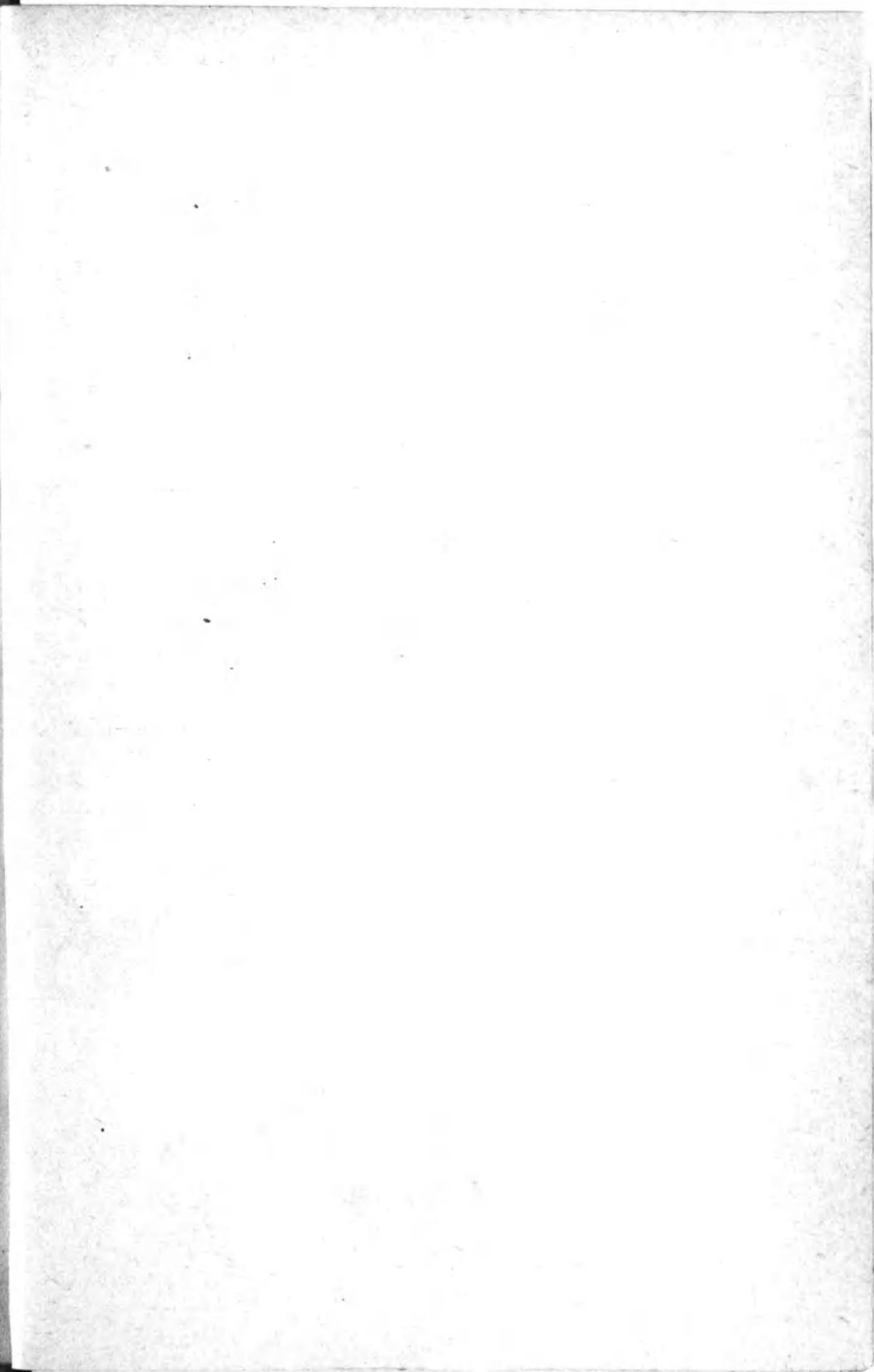
版
字
羽
白
讀
本

版
實習讀本
画

旭正秀著



京東
社外內





木 版 風 景

暑中御伺

一九三三年七月



あき

例作 トツカノヲ

263.3-3/3

目次

口 繪

裸 婦 (木版二度刷)
風 景 (木版)
リノカット作例

挿 繪

モノタイプ作例(寫真版).....	一八
リノカット作例.....	二三
合羽版作例.....	二七
芋版作例(寫真凸版).....	三〇
應用版畫作例(一).....	三六
同 (二).....	三七
はしがき.....	一

刀の種類と効用	五
刀の持ち方	六
彫り方	七
駒すきの持ち方	八
用刀効果	九
繪による用刀の試法と効用	一〇
文字による用刀試法と効用	一一
摺り刷毛	一二
パレン	一三
紙の當て方	一四
本文	
版畫の作り方	一五
モノタイプを描き方	一九
リノリウム版の技法	二四
合羽版のこと	二八
芋版の作り方	三一
應用版畫について	三八
おはりに	四四

はしがき

三度版畫の技法書を、世におくります。
 今度の本は、今迄のやうな理屈っぽいものではなく、名實共に、誰れにでも今からすぐに出來る、容易い版畫の作り方を説きました。

名づけて、『版畫實習讀本』よんでのみ込むより見た目から會得出来るやう心がけて見ました。したがつてこの本は、堅苦しい圖畫教育でも、手工教育でもありません。皆様のうちなる藝術發成をひき出す一つの手引草ともなればといふ氣持で楽しみ乍ら何かやつて見たいと思ふ方々に小刀一本で繪筆の代りにいろくの面白い版畫またはそれを應用した手工藝品をこしらへてゆく、つまり版木や、刀の持ち方、運び方からはじめて誰もが面白く手軽にやれる制作の要領を、餘すところなく親切に丁寧にお導きすることにつとめました。

つまりこれは、恣ふした方面に全くの素人の方を目やすに於いてその人々に版畫作程の面白味を容易に會得していただきたいといふのが目的でしたので、従つて多少共専門的なことは一切止

して、版畫の中でも極めてたやすい、余技的なもののみを撰んでまとめたのです。

諸君がこの本を讀まれて、これらの版畫の作り方が解つて頂けると、必ずや自分一個の内面的
悦樂を増すばかりでなく、各自に與えられた天分次第で、やがては高尚な本格的な、趣味の向上
を計られ得ることも決して難くはないと信じます。

小學生諸君は、今日すでに、この版畫をつくることは、手工の科目中にあること、思ひますが
益々この本によつて得た智識を運用されて、學校の成績の上に好果を得られるやう、また、學校
の先生方や兒童のこうした方面に關心をもつてゐられる側の方々は、この本のもつ意義を解せら
れてもう一度版畫を見直して何等かのヒントを得て頂きたく。中學生、女學生諸君にあつては、
友達同志や學校で催されるいろいろの集りや會合さては同人雜誌のカットに表紙、音樂會のプロ
グラム等々に活用されるやう、また商店その他の諸君にあつては新し味のある廣告ビラとか、店
飾等の方面に應用されるやう。その氣になつて實行さへすれば、大抵のことは誰にでもでき得る
ものであります。

なほ私はこの本の使命をもう一步延ばして、世の多くの家庭に居られる奥様方や、技藝手工藝

實科等の諸學校の生徒さん達へ特におすゝめ致したく、多分の期待をもつて居ります。

近年、家庭手藝の長足の進歩は實におどろく程であります。しかも今日の家庭手藝はひところ
のしほりぞめだの毛糸あみもの等のやうな一時的の流行ではなくなつて、單なる趣味や興味の上
だけでなしに、餘程まじめに考慮されるやうになつて來ました。これはまことに喜ばしい事實
で、一度失はれた日本の手藝が再び家庭によみがえりつゝあることは、どんなに愉快なことか知
れません。歐洲各國でも、今日如何に機械文明が發達しても矢張この家庭の手工藝は、他のいろ
々な手仕事と共に尊重されて居ります。

新しい手藝の意味は、即ち手法の新しい意味にとりたく、手法の珍しさ、材料の珍しさといふ
ものは、「美」を發揮する上に、また別段の意義をもたらずものです。材料と云ふものは、その
「美」を構成して行く上に良き要件でもある會です。さうした意味合からも私は、この容易に出來
る版畫の趣味と手法をそのまま、今日の皆様達のお仕事の中へ入り込ませて頂きたいのです。

版畫を應用した家庭手工藝、必ずや皆様の興味ある情線を引き起さすには置きますまい。

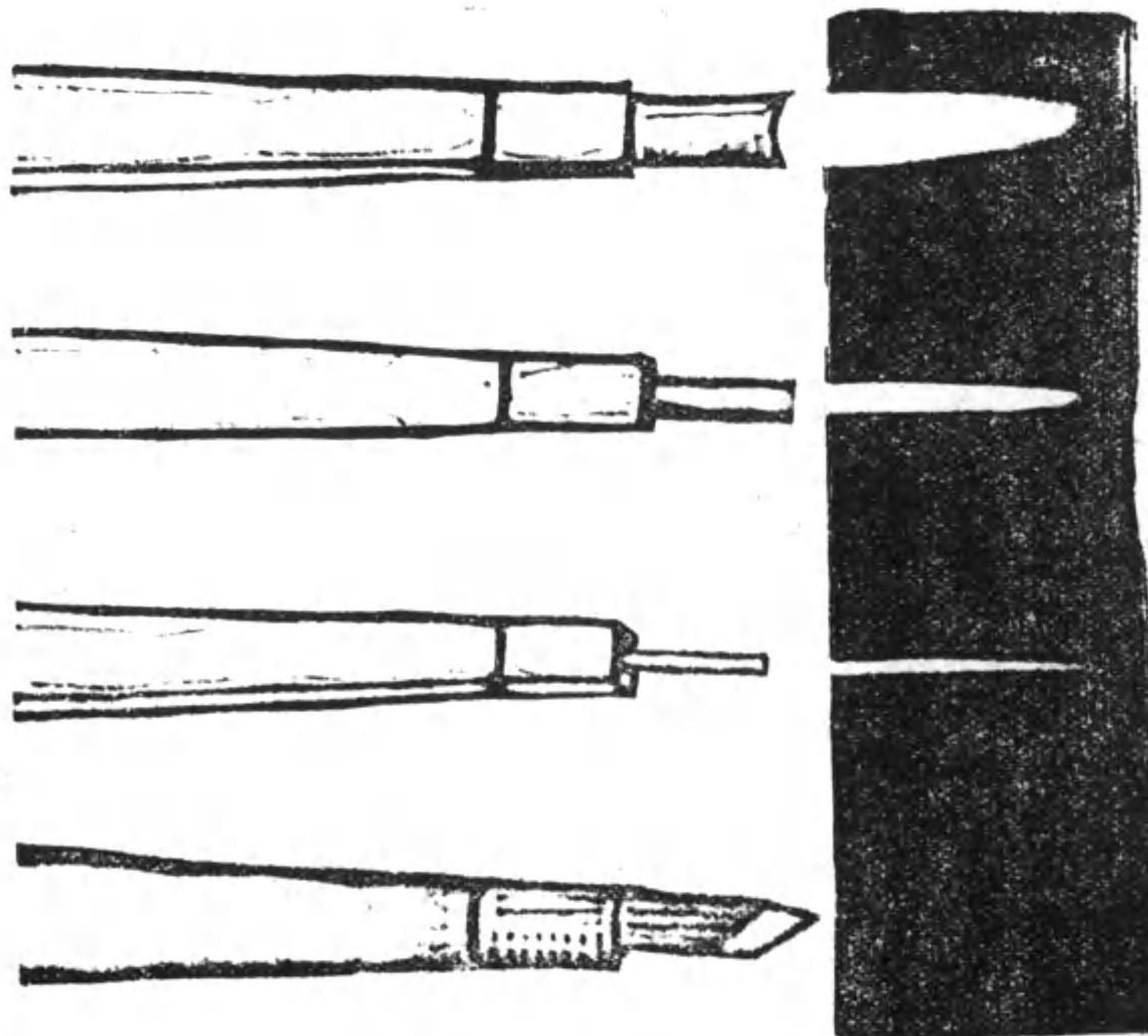
この讀本は實にそうした方面の方々にも、採用していただくべく、書肆内外社の希望もその邊

りにあるらしく、あゝもしたら作り易からふか、斯うもしたら容易に出来やうかといふ心遣ひは或る場合わがまゝ勝手な作品を作るよりも、どれ程苦しいことかも知れません。その點でこの本は餘り簡單すぎて、多少お解りにくい點がないとも云へないと思ひます。しかしながら、技術上のことはどんなに親切で克明に記述された本をよんだからとて、決して本を讀んだだけでは到底解得出来るものではなく、自分で實際に手を下して見さへすれば、案外容易に自得し得ることのみであります、何事によらず先づ實行こそ、最後のものであると信じます。自然はすべて人間に公平に分け與えてゐるのです。只皆様はその與へられたうちなるものを引出す、いとぐちにたどりつくことでそれからは、各自の與へられたものを生かしてそれぞれの特性を成長發達されてゆくことでせう。

なほ私は特にこの書の著者の責任としてまた一つには、この本を通じておちかづきになつた因縁に感謝し、併せてひやかしいでない限り初等者の方の御質問なり、制作の御相談にも應じたいと思ひます。

昭和七年七月

旭 正 秀



刀の種類と効用

先づはじめての方に適當のものとして、上段三種の駒すきと、版畫刀を示しました。三種は御覽の如く大、中、小、その他種類は幾等もありますが大抵のことはこれだけで足りる筈です。なほ、右側の白ぬきはそれぞれ刀の効果を表したのです。

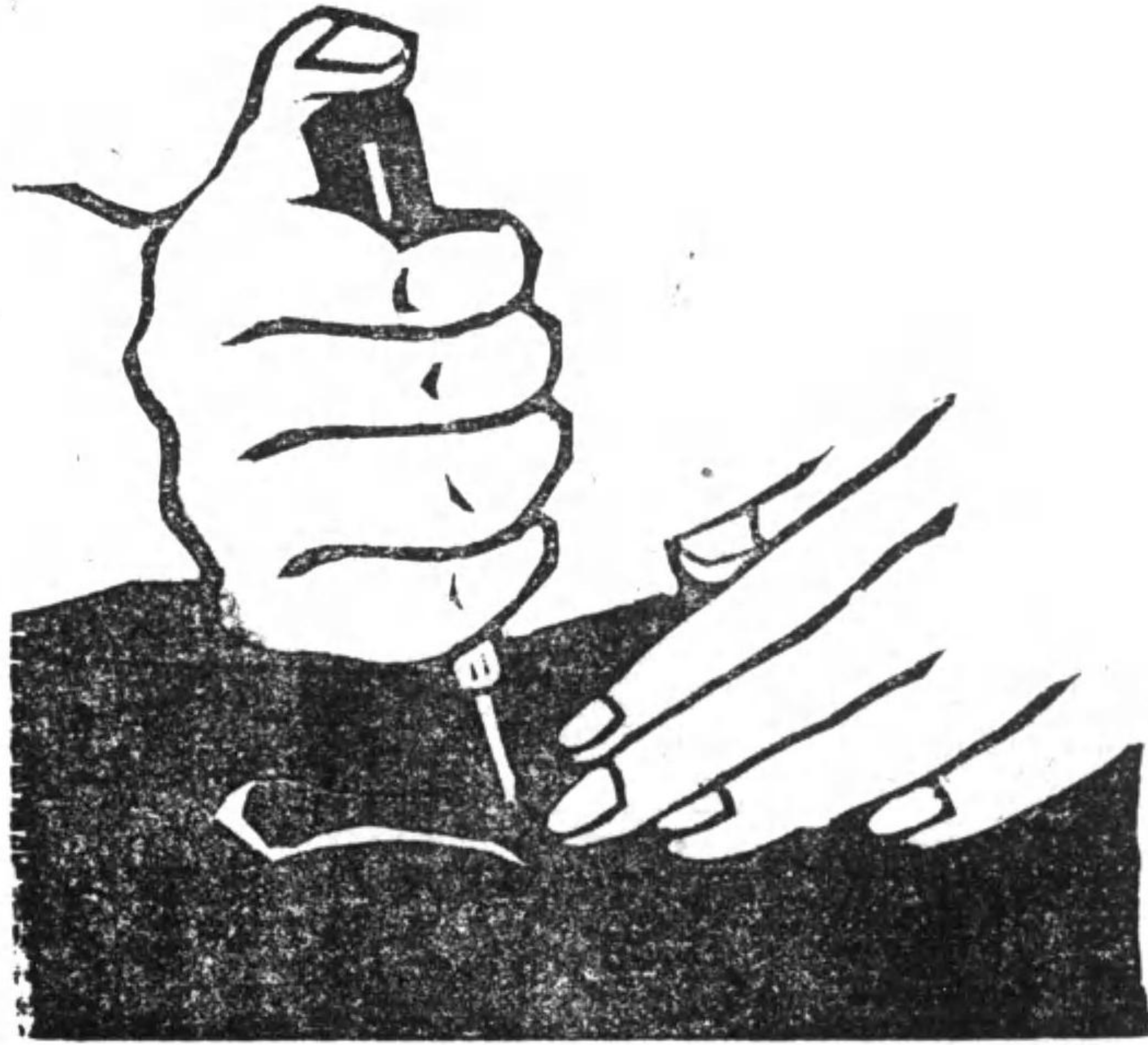


刀の持ち方

圖の如くに版畫刀

を持ち、運刀の自

由を調節します。



彫り方

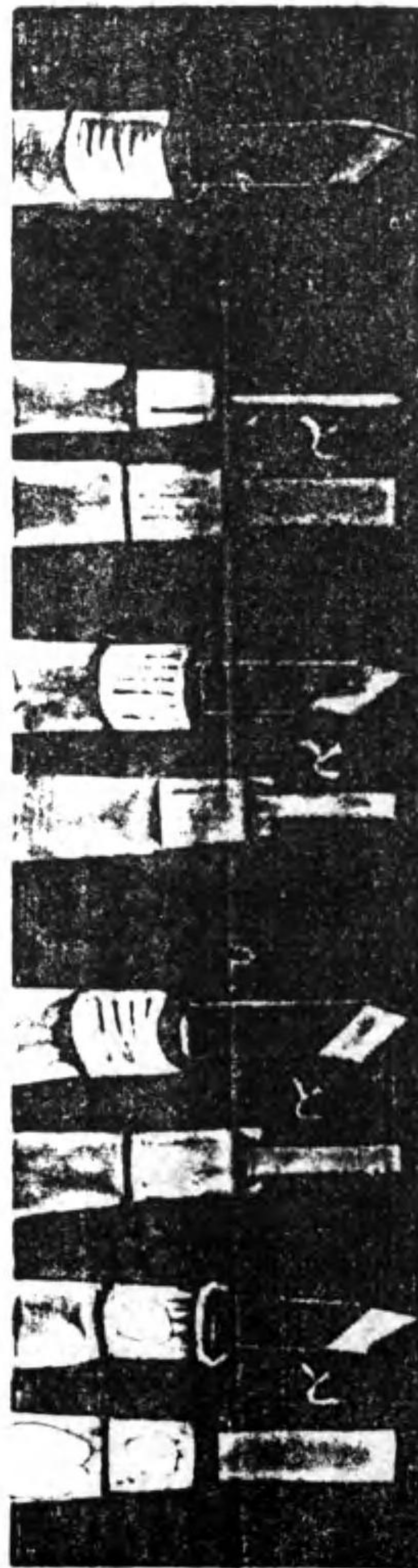
上圖のやうに、

左手で刀先を誘導すると

いつたやうな氣持で、右

手にもつた版畫刀の運用

を助けます。



かすね彫り

白又キ網ホリ

カゴメ彫り

点々彫り

板ボカシ

用 刀 効 果



騎すきの持ち方

騎すきは圖の如く、筆や鉛筆を使用するのと同じやうに持つて突き乍ら彫つてゆくのです。

次頁は、刀による様々の効果を示してをきました。

伊

四

ノ

小刀の
ほ

呂

ろ

口

ノ白ネキ
コマスキ

薬

は

ハ

デホル
コマスキ

版効用
の作

用刀試法
の効果と

文字を依る
簡單な。

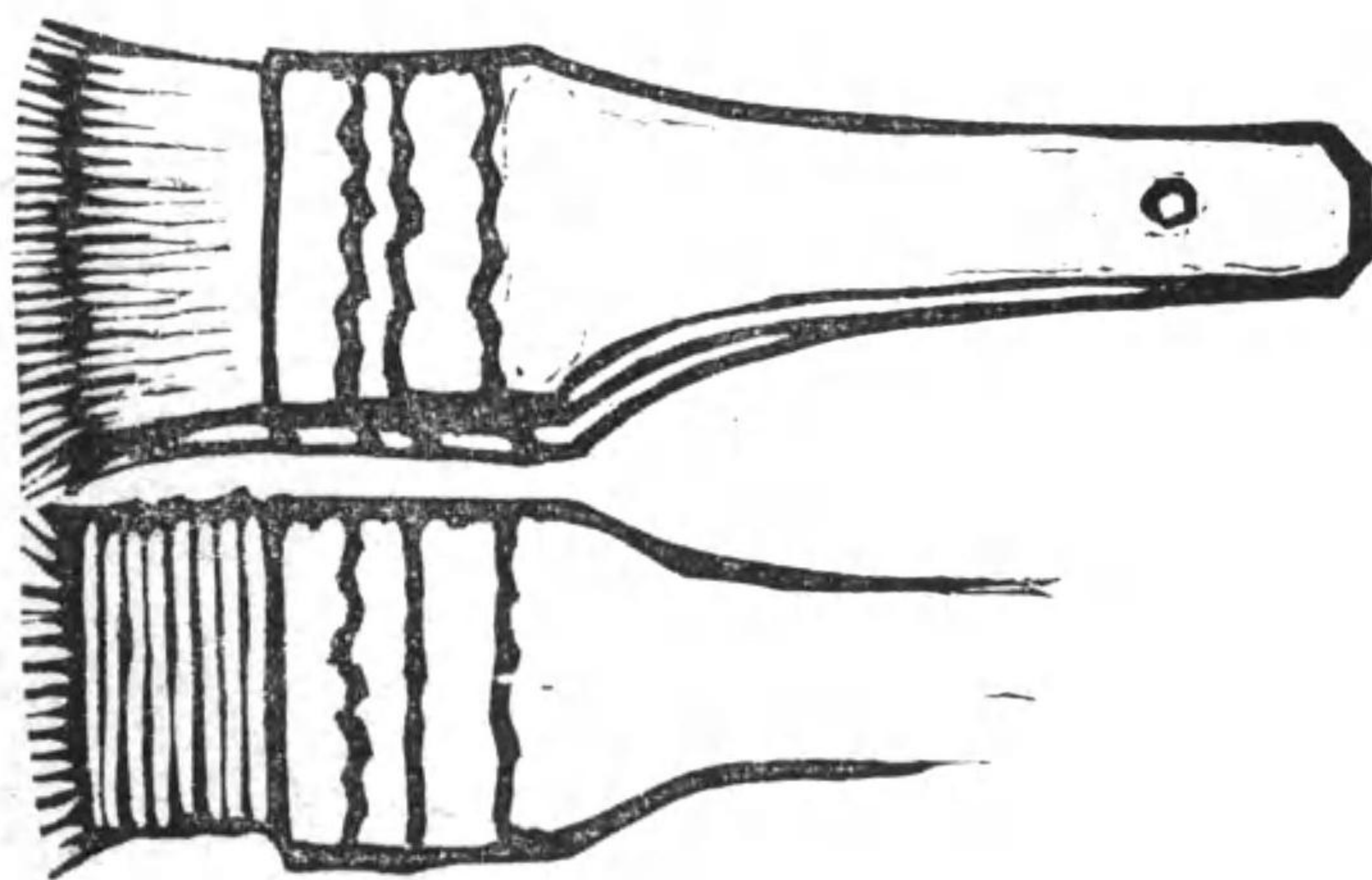


用効と法試の刀用るよに繪



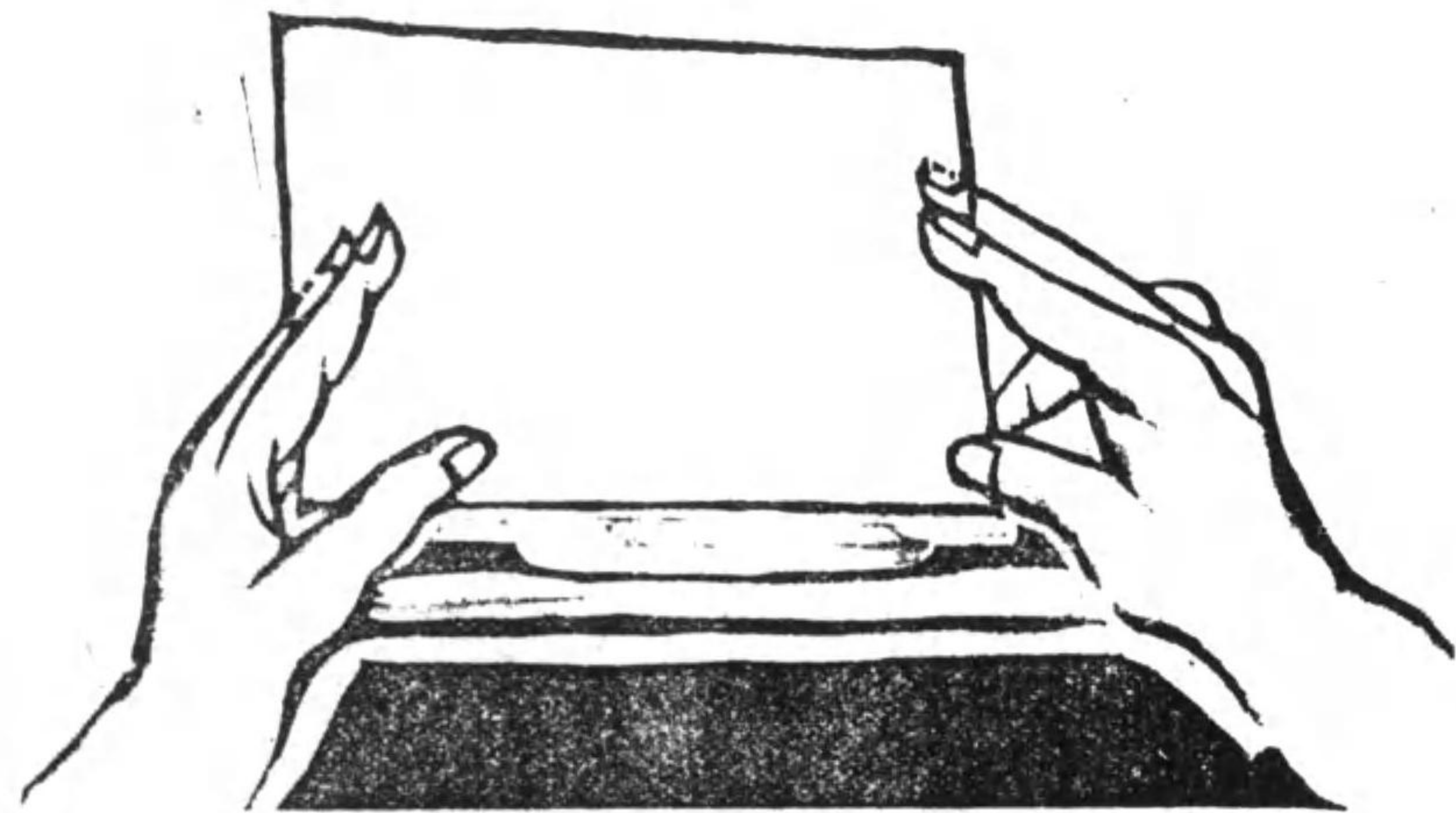
バレン

これは版畫を作る上には是非必要なものです。竹の皮の結び目のところを握り、左右に動かし乍ら摺ります。摺りの効果はこのバレンの手加減一つによるのです。



摺り刷毛

刷毛は版面に繪具をつけるために用ひます。これは専門家用のものですが、しかし小品を作る場合は、無理にこれではなく、竹揚子でもけっこう間に合ひます。



紙の當て方

版につけた、見當を目當
てに印刷する用紙を、圖
の如く左右の指ではさん
で當てるのです。

版畫の作り方

こゝでは主として簡単な木版の作り方について述べます。

在來の日本木版は、畫家と刻師と、刷師との共同制作でしたが、新しい創作木版は、それを何もかも一人でやつて、版畫の藝術的價値を一層深めて行かうと云ふのです。

さて大體は、前述の圖解によつて、先づ彫らうとする畫を薄い紙に描いて、版板に裏むけに張りつけます。又繪を紙に描かないで、直接板に描いてもいゝのですが、このときは出來上つた繪が反對になる譯けですから注意して頂きたい。

版板は櫻か朴の木がよろしく、下繪ともなる繪を板に張るとき糊は、云ふまでもなく紙の方へつけないで板の上へぢかにつけて掌でたゞき乍ら延ばすのです、こうすると、糊がムラなくつくのです。糊にムラがあつたりすると、紙に皺が出來たりして彫るときに困りますから、これはよく注意して丁寧なやらなければなりません。

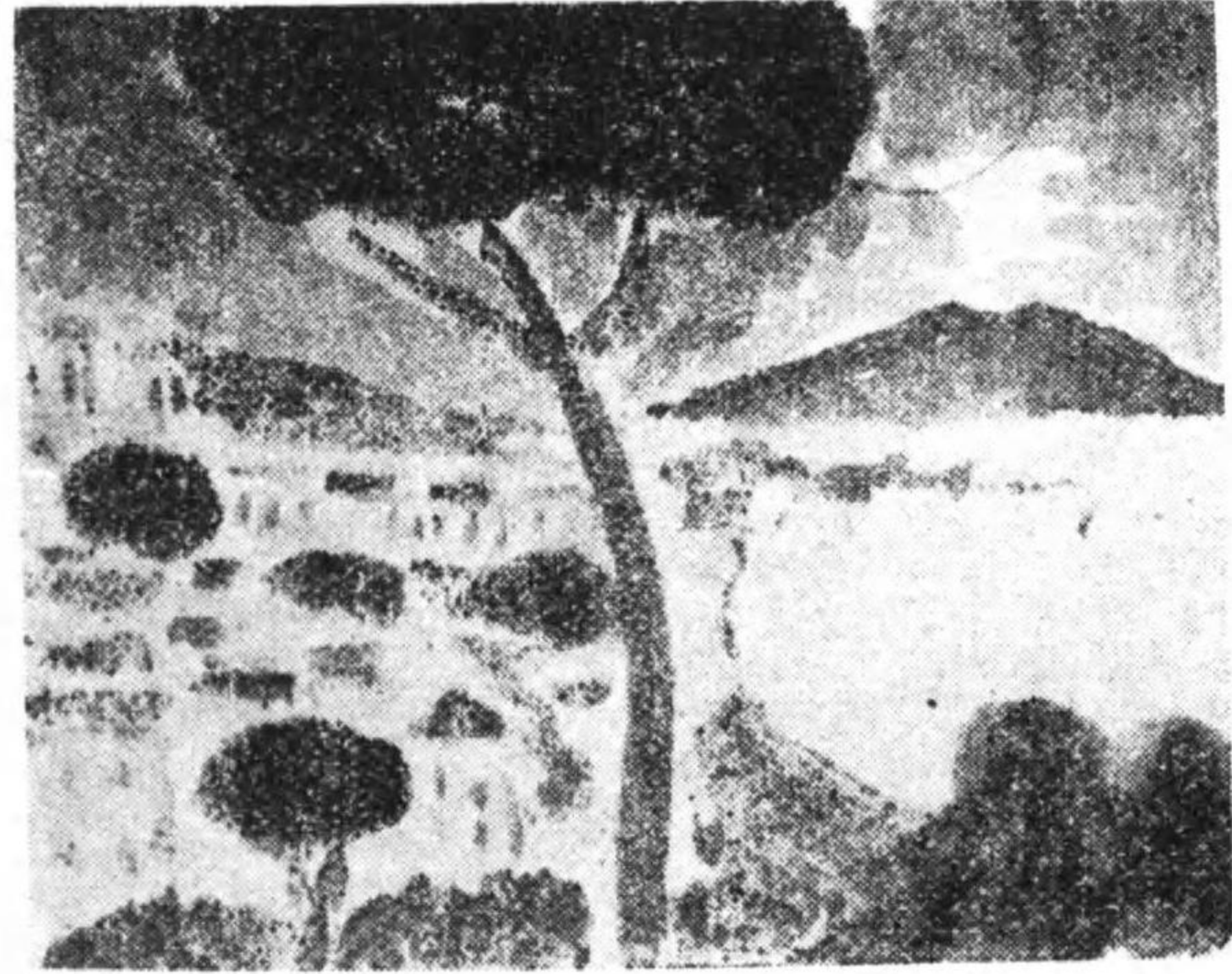
次に張つた紙が乾いたら彫りにかゝります。双物は前掲の圖解にあるものだけで、結構だと思ひますが尙ほ自分の作りたい版畫に尤もふさわしい双物を自由に自分の好みで選ぶべきです。どの双物がどんな効果を得るかは、いろ／＼な作例や、前掲の双物の種類と一緒に掲げた、彫り口なり、また文字の彫り方に依る簡単な効果を圖解によつて皆さんでそれぞれ工夫して見て下さい。それから双物の運び方は、繪筆をもつたときは反對に、初め線なり點々なりの部分を、細い駒すきで彫り残し、最後に不用なところをその廣い狭いに應じて丸のみや駒すきで浚ひ取ります。彫るとき一番大切なことは、張つたり描いたりした下繪をそのままそつくり、その通りに彫つたのでは複製版畫になつて、創作的價值がつまり版畫独自の面白味がなくなります。それ故、繪筆を持つ代りに双物で繪をかくといふ心持であつてほしいのです。

彫り終つたら、版面に貼りつけた下繪の紙をはがし、今度は刷りにかゝります。

墨でも、水彩繪具でもボスタカラーでも良いのです。刷毛の用意がない場合小品なら齒ブラシ

でもいゝのです。また（油繪具や石版インクの場合ならゴムローでつけてもかまいません）使用する繪具を少しづつ、相當毛の硬い刷毛なり竹揚子で版面へ塗り手早く紙を載せて圖解にあるパレンで刷りながら版畫を制作してゆくのです。

以上極めて簡単な、誰れにでも出来る木版畫の作り方等が、色摺りを起す場合の木版はその配色に用ふ部分だけの版をつくり、その一つ一つに見當といふ一定の目やすをつくりそこへ紙を當て順序に刷り合せて行くのです。見當は口繪のリノカット作例並びに圖解——紙の當て方を見て頂きたい。以上述べたと同じやうなやり方で、リノリウムに彫つたりリノリウム版、芋を切つてその切り口へ彫つた芋版等、皆さんの工夫一つでいろ／＼なものが版になり、そこから手藝の面白味が発生する譯けであります。



例作・フイタノモ

モノタイプ版の描き方

モノタイプといふのは読んで字の如く、Monoは一つの意味で、Typeは印刷、即ち一枚しか出来ぬ版書といふそれ自體獨得な押し繪のことである。

つまり木版や、リノリウムや芋に版をこしらへて摺つたものではなく、描いた繪の上に紙を當て、直接に摺り取つたものをいふのです。

材料は板でも金屬版でも、石版でも、硝子板でもなんでもいゝのですが、大抵は硝子板の方が無難で便利なやうである。繪具や油繪具の場合はリンシード油とテレピン油をませたものを筆にしめて色をつける度にゆるく解き乍ら描いてゆくのです。

これは硝子面にかすれていゝ按ばいに描けぬためにゆるくすると、一つには刷るまでに乾かないやう、かたませない爲です。

水彩繪具のときは、すぐ乾く不便と、そのまゝでは硝子面で繪具の散るおそれがあるので、リッスリンで溶ひて使ふ。版は書きつばなしでいゝのだからすぐに摺りである。

摺りは描きつけた繪なり模様繪具の乾かないうちに紙を當て、手早く摺り取る、一度の摺りで満足出来ない場合には紙の一方を紙挟みか何かでしつかりと止めて置いて幾度でも繪具をさして繰り返して摺り上げる。

また、もう一つの方法は板一面にルーラーか何かで、萬遍に繪具なりインクを塗つておいて、手早く、小揚子かマツチの棒で繪をかくて調子をつけておいてその上から紙を當て、上から平に強く押してゆく。

これでモノタイプ版は終るのであるがこの方法は専門の版畫家からは餘り歓迎されてゐないやうです。つまり、只板や石版へ描いたものを摺るだけなら、わざわざそんなめんどろなことをせず共たゞ描いただけの方がいゝといつたやうな意味で、卑怯な感じがするとか、一枚しか出来ないものなら版畫ではない。版の味を借りて來ただけなのだから、一枚の繪だけで充分だといふのです。

然し私は、はじめて版畫を試みられるアマチュアの方々には却つておもしろく、また、版畫の廣い應用範圍の一つとして、決して無意味ではないとおもふのです。

たとへば、一本の草花を版畫にするときその花瓣だけを木版にして、斑點やツブシのところへこのモノタイプを應用する等面白く、版の味を借りて來たその摺り上りの味等仲々捨てがたいものがある。と共に摺りの研究にもなると思ふ。

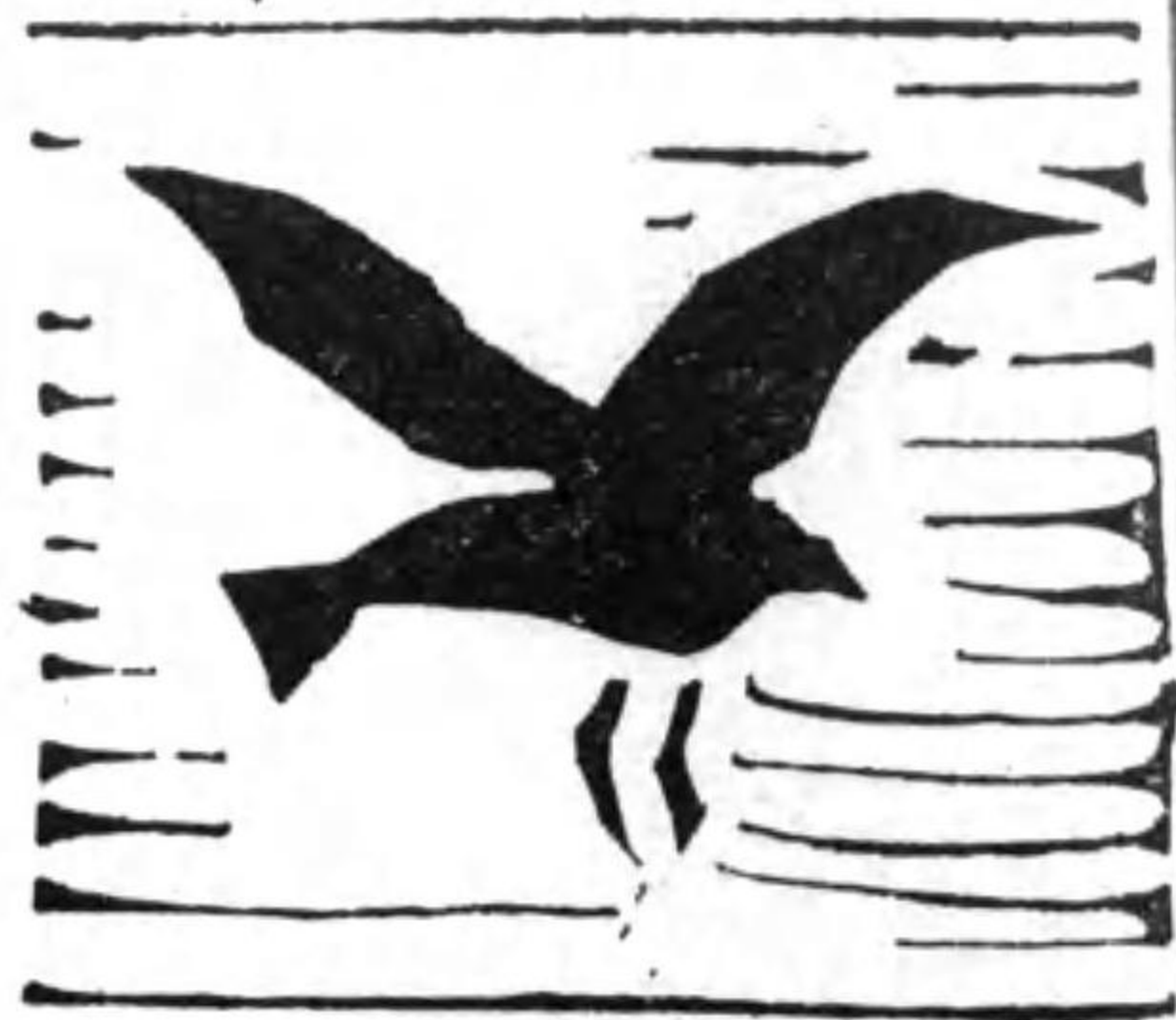
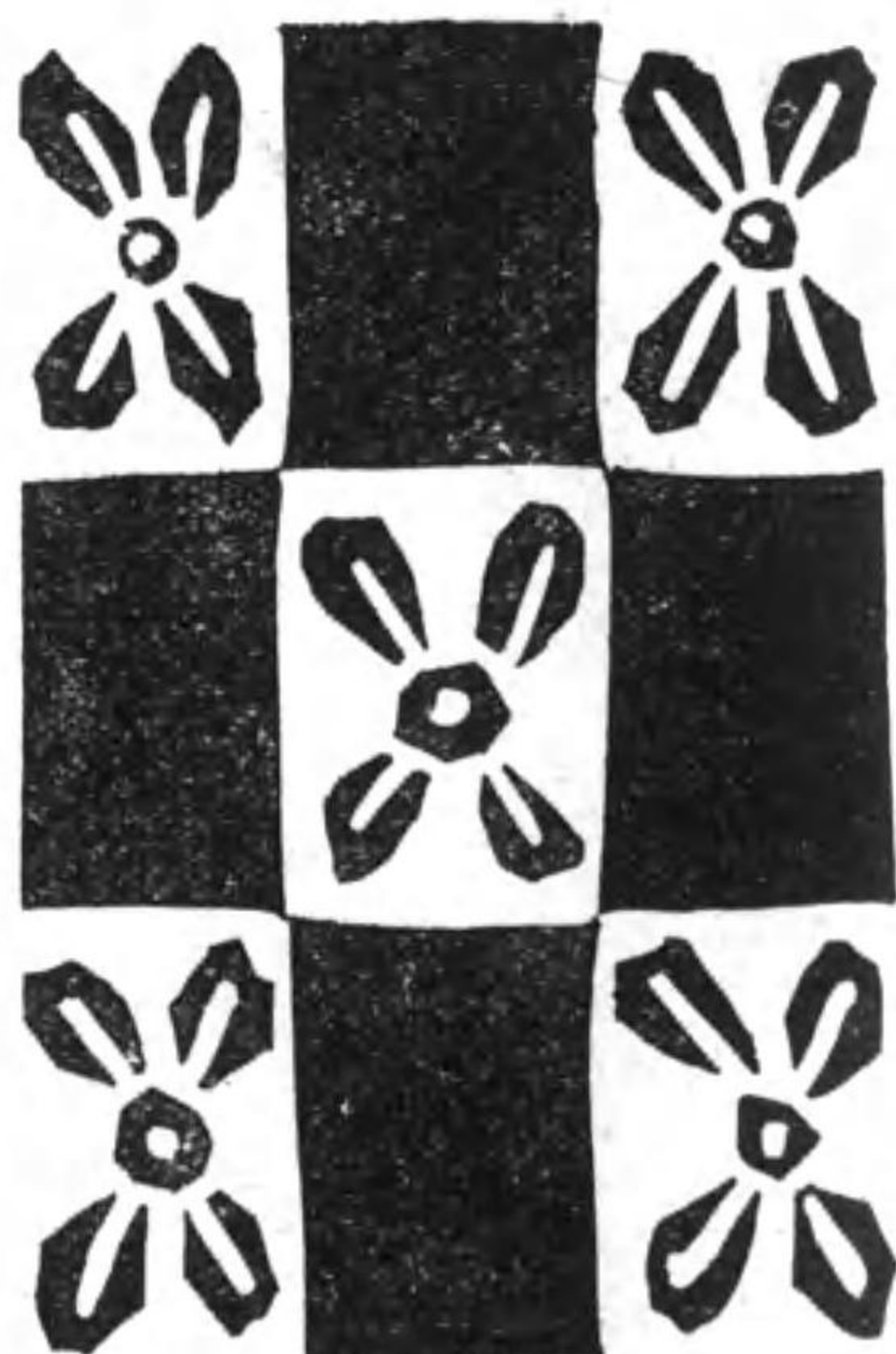
それからまた、描き乍ら、みづゑや油繪などでは一寸見られない面白い技巧や効果の點などにある發見を見出すことがある。例へばハイライトを作るのに、指先きで、繪具を除いたり、木の枝などは筆の柄の尻で繪具を引きかいたりして白い線のハイライトが出る、つまり前述の版面に繪具を萬遍に塗つておいてひつかいて行くのと同じ方法をこゝで應用するのです。

これは、木の葉の茂つた樹塊などもこの仕方、葉の茂みを表はすことが出来る。魚の鱗とか家根の瓦、垣根、草叢などにもこの引きかきの技法を面白く働かせることは中々に効果を得られ、しかも版畫としての畫面を形づくる。

つまりモノタイプも扱ひ方一つで、とても無意至成ではないのである。

念のために、このモノタイプ版についての注意を二、三、

先づ何より、描いた繪を轉寫するのであるから、摺つた函があべこべになる。畫の誤りや、不



リノカット作例

作例上圖は、木版の上へ日本繪具でモノタイプしたので、下圖は硝子板の上へインクをつけて
かき取つたのです。

完全なところを見るために描き上げた硝子板を摺る前に一度裏返しにして見る、または下へ白紙
を敷いて見る、そしてその缺點が見えたらその個所を布で拭き取つて描き直すなり補筆する。
それから繪具の溶き方があまりゆる過ぎると紙へ摺つたときまはりに油なり繪具が浸み出して
紙の明るさを無くしてしまつたり、徒らにきたならしくよごしてしまふ、ことを注意してをきま
す。
それと同じで、余り厚く繪具をつけすぎると、繪具がはみ出して折角の繪がこわされてしまふ
恐れがあります。

リノリウム版の技法

リノリウムは、よく洋室の床に敷かれたり汽車の食堂車や汽船の室内に敷かれてある、敷物である。これを版木に代へて彫るリノカットともいふ。

日本の版畫の初期は大抵皆このリノカットの趣味から入つたので、木版やエツチングに比して不正確な感はあるが、彫るのに容易で自由な感じの表はれる點一種の面白味がある。

しかも耐久力はむしろ木版よりも強く、繪の肌合が芋版等より數等上品で氣持がよく、遙かに版畫としての確實性を有してゐて畫に力がある。

それ故に手輕な版畫として尤も優れたものだと思ふ。

そこで先づ彫り方であるが、これは大體今までに述べた通りで大差はない。只何よりもいつも研ぎすまして刀の切れ味をよくしておくことである。これはリノリウムの性質がゴム質にキルクダの何かを混ぜてこしらへたもの故、芋や木版を彫るより余計に刃がきれ止む恐れがある。

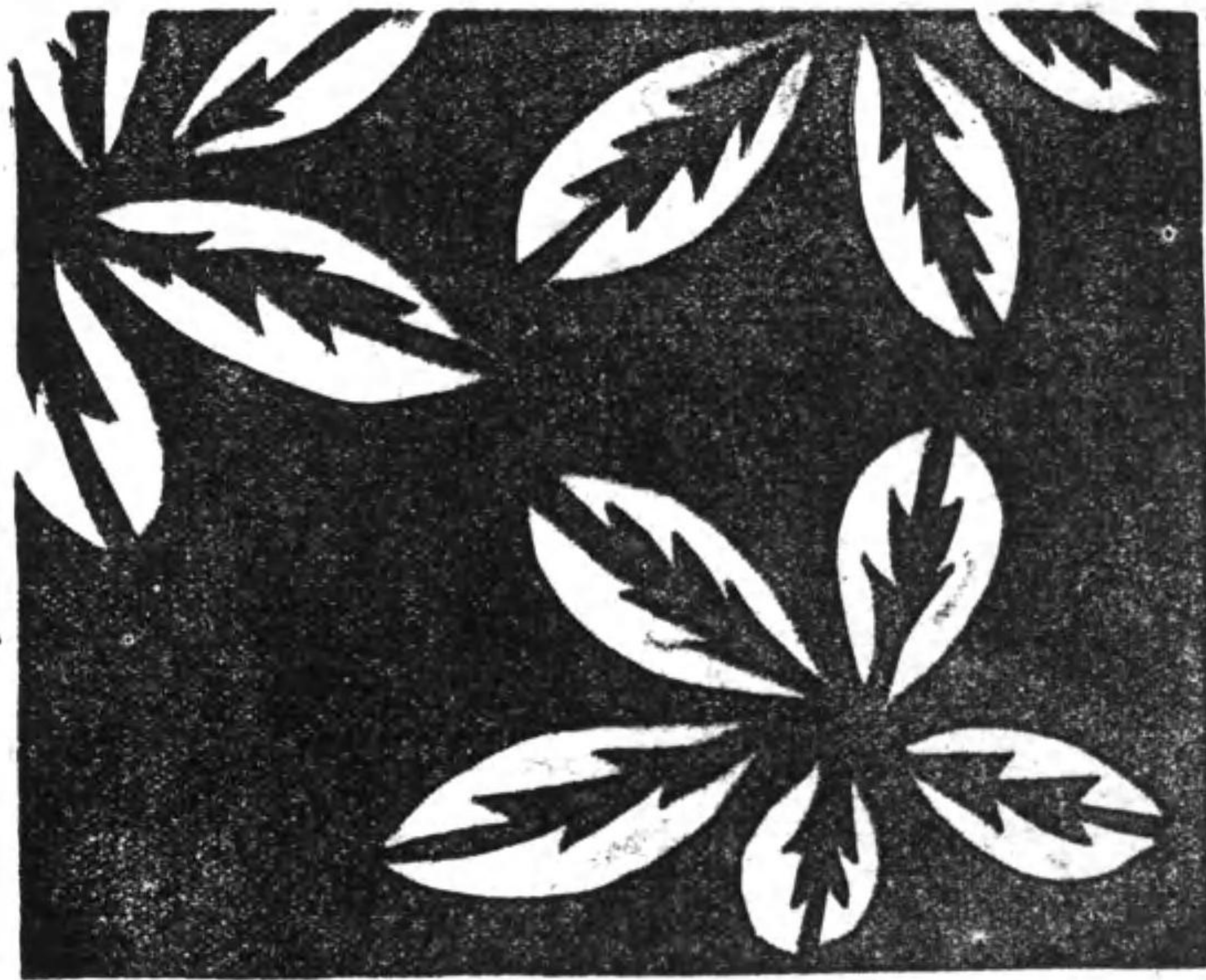
そのかはり切れ味さへよければ、鉛筆を削るナイフ一挺でも、丸のみでも、またペン先の元の方の丸味のある方を研いで刃をつけても、蝙蝠傘の受け骨を外側から研いでも間に合すことも出来る。下繪の方法、直接下繪をかき附けた場合には出上りが左向きになることは、版畫の場合いつも變りないが、注意してほしいものである。

下繪のことで只一寸云ひ添えておきたいことは、このリノカットの場合は特に、成るべく簡単な構圖のもので、調子が大きくしつかりしたものを撰ぶ方が間違ひが少くない。それと共になるべく筆數を省略することの方が面白味を一層増大する。即ち成るべく單純化することである。それから色彩も成るべく大膽に色調を整へる方がいい。

こんな點をいろいろ考へてくると勢ひ寫實味が抜けて裝飾味の方が勝ちはしないかと思はれる向きがあるかもしれぬが、その方が却つて面白いので、リノカットはどちらかといふと寫實味よりも大まかな裝飾的な應用美術としてよりよくその特色なり價値を有すると見るべきであらふ。

摺り方、リノカットは木版と違へて墨や繪具が版に吸収されて居ないから、直ぐ乾いてしまふ。

合羽切りヌキ版



合羽スリ上げ



例 作 版 羽 合

それで水彩繪具とか、墨なら普通より濃くして幾分の粘り氣味にするとか、油繪具、ポスターカラーならそのままでもいいが、その邊の考慮が必要である。
紙のことは云ふまでもなく任意である。

合羽版のこと

合羽版すなはち、澁を引いた紙を切り抜いて、それを用ふべき紙の上へ當てその上から繪具を摺り込んでゆく。紙には切り抜かれた形が摺り現はれるところすなはちステンシルの意である。日本在來の浴衣地とか友禪染とかは大體この型紙を用ひて制染せられたもので、西洋等でもエビナール地方に見る版畫の配色の部分などは殆どこれを施用したものである。

用材の主なものゝ日本紙の生地紙を二三枚柿澁で強く乾しかためたものであるし、それを切り抜くだけの手法しか施せないものである。それ故、餘り精巧なものや、一枚繪としての版畫には向かないが、木版畫の色さしの部分とかいたのは應用版畫の方へは實に簡意でまた調法である。

版を彫るといふかわりに、型紙を先づ切り抜かねばならぬ、下繪は例によつて直接にその合羽紙の上へ描きつけるか、または別に描いた下繪をびんつけか、り、で一寸づらない程度に張りつけて小刀でその下繪の線や、必要な個處を一つ／＼切りぬいてゆく、型を切り抜くにはなんでもいゝのだが、成るべくなら薄い兩刃の物を用ひた方がいゝ、切抜用の切出し小刀といふのを賣つて

はゐるが、無理にそれをそろへなくともことは足りる。

そして全部切りぬき終つたらその型紙を印刷すべき用紙なり、布地の上に當てがひ、刷毛に繪具を含ませて摺込むでゆくのである。

刷毛の平刷毛は使ひにくいから、丸刷毛を用ひる、なほ刷毛はこの場合パレンの役をも勤めるもの故只版に繪具をなすりつけるといふ意味だけでなしに、たとへば細い線の切りぬきのところなれば、その線の方向に、又は廣い部分の切りぬきなれば中心に向つて型紙をおさへながらこすりつける。

これで一度刷のものは出來上るわけだが、線の長いものとか、圓く輪になつたりして居るときとか、又は彩色を幾つも施すやうな場合には外の版畫のときと同様その數だけの型紙を用意してその一つ一つを彫り且つ必要に依つては合せ摺りをせねばならぬ。



例作 版 芋

芋版の作り方

芋に模様を彫つて版を拵え、その版を紙なり布地に押捺して更紗をつくるのです。芋と單にいつても山の芋や里芋でない、馬鈴薯とか、薩摩芋、即ち甘藷がそれに適してゐます。

勿論芋版はその性質上多量製産のものにするには不可能である。それから何んでも彼でも芋版にして面白いかといふとそうは行かぬ。芋版の面白味は先づ芋でなければ表はし得ない柔味と芋自身に含まれてゐる水分のために、一度つけられた色が何度も擦られることである。

そのかはり芋版の缺點は、柔かすぎて永く使用が出来ないことである。尤もこれは年中いつでも手軽に得られるといふ便利と、刻ることが容易なことで、差引大した問題ではない譯けです。芋版に使用する芋の良否は、食べて旨いまづいでは區別はつきかねるが、筋のあるもの、中央に巢の出来たものは駄目で、赤芋より白芋の方が良い、時季で云へば十二月から三月へかけてのもの、或は圍い芋でもきめの細いものなら結構である。判り切つたことだが、土のついてゐるま

ま保存したものは可なり永い日がたつたもので、相當使用に堪え得るが、洗つてとつておいたのはすぐ駄目になる。勿論一度切つたら早速使用すべきである。

それから版にするのには、縦か横の二つに切らねばならぬ、それをどつちに切るかは、その彫る模様の大小如何によることであるが、版にしてからの芋が永く保つか保たぬかはこの切り方のどつちかで決ることである。

こんな場合尤も容易なことは必要の長さ大きさ以外の兩端をはじめに切り落しておいて更に板にのせられた芋がぐらつかぬ程度に版に面する芋の面を切つて置くのです。

それから特に考へてほしいのは、芋の切り口の面で、この面をきれいに切る場合と、グサツと切つて小皺を澤山作る場合と、それから、きれいに切つて置いてその切り面を小刀で搔いて幾多の搔線を入れた場合、それが使用する個處によつてそれぞれの趣きの異つた面白さの現はれることです。

次に芋版の刻り方、先づ彫らうと思ふ模様を半紙にでも描いて、その部分を芋にあて、指で

按で廻し乍ら芋に寫しとる、そして、小刀で少しづつ彫つて行くのである。

模様だけが白く残るやうに彫らふと思ふときは小刀を芋の面と直角になるやうにしないで斜に内側の方内側の方に向けて少しづつ小刀を運ぶのである。つまり彫り取つてしまふ方へ刀を斜に使つてゆくのである。

いつの場合でも小刀を芋の面と直角になるやうな使ひ方をせず、斜に内側か斜に外側か何れにか彫り起すやうにすれば彫つた芋が宙に浮くといふやうなことがなくてすむ。今一つは小刀の運ばし方であるが。

彫るべき形なり模様の輪廓をすらくと線に忠實な彫り方をするのと、形といふもののみ拘泥せず、寧ろ彫り方の加減で形に面白味を造つてみやうとするために、刀を直線のみ繋ぎにするやうな刻み方をするのとある。

短かい直線が益々短くなればなる程、そのつなぎは點のつなぎのやうに曲線に近づいてしまふものであるから長い直線や短い直線の組み合せを作つた刻み方をしないと面白味は薄らいで行く。それから彫る深さである。

芋は刻むのに甚だ樂である故に兎角刃物が深く入り込み勝になるし、その質も大變もろひ、ひからなるべく、浅い目に加減して彫るべきで、彫りのけるとき勢よくピンと掘り去らぬやう、刀を徐ろに運ばすことである。

彫り上つた芋は不用の部分は切り取つて押し良いやうにして置き、押し損じたり、再度同じ場所押し直すやうな時、樂に合せられてやうに版の面を三角錐の底となるやう版面の背後の部分を版の面より面積を狭く切つておくのである。

次に芋版の押し方。押し方の前に先づ芋版につける繪具の含ませ加減である。

絹布等に押すときは染料繪具を筆に少しつけて芋面につけた繪具の水氣を少ない目にし、木綿の裂には繪具を充分にたつぷりと含ませることである。

さていよく押し方であるが、初めは力を抜いて押し、漸次力を入れて押すといふ風にするのである。

それから芋版を更紗に應用しやうとする人々のために用ふる布のことについても一寸云ひ添え

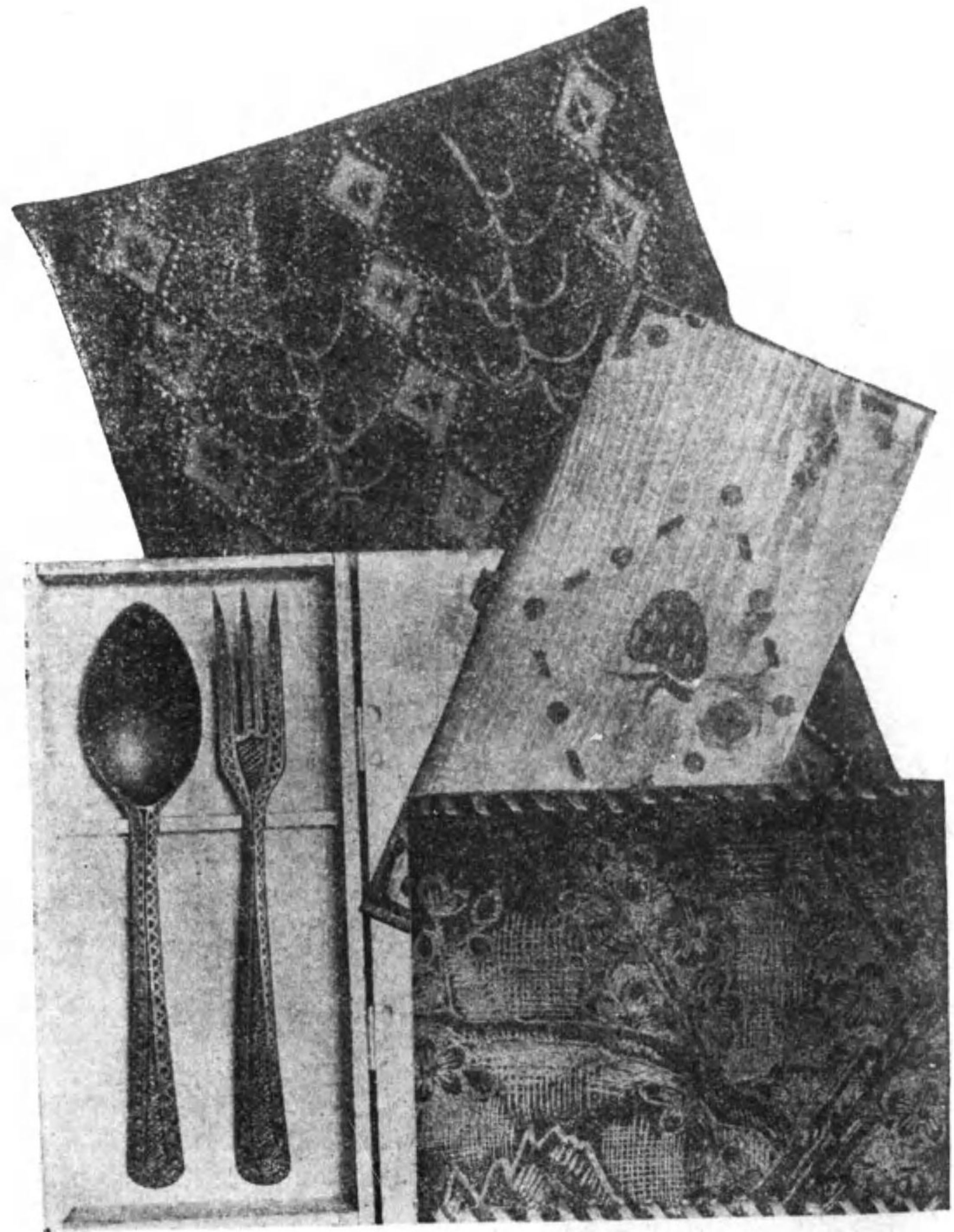
ておこう。

芋版は絹や木綿でも大抵な布には押せるものだが、良いものに出來上るのは一般の木綿と紬の類である。就中絹紬なども樂で面白いものである。

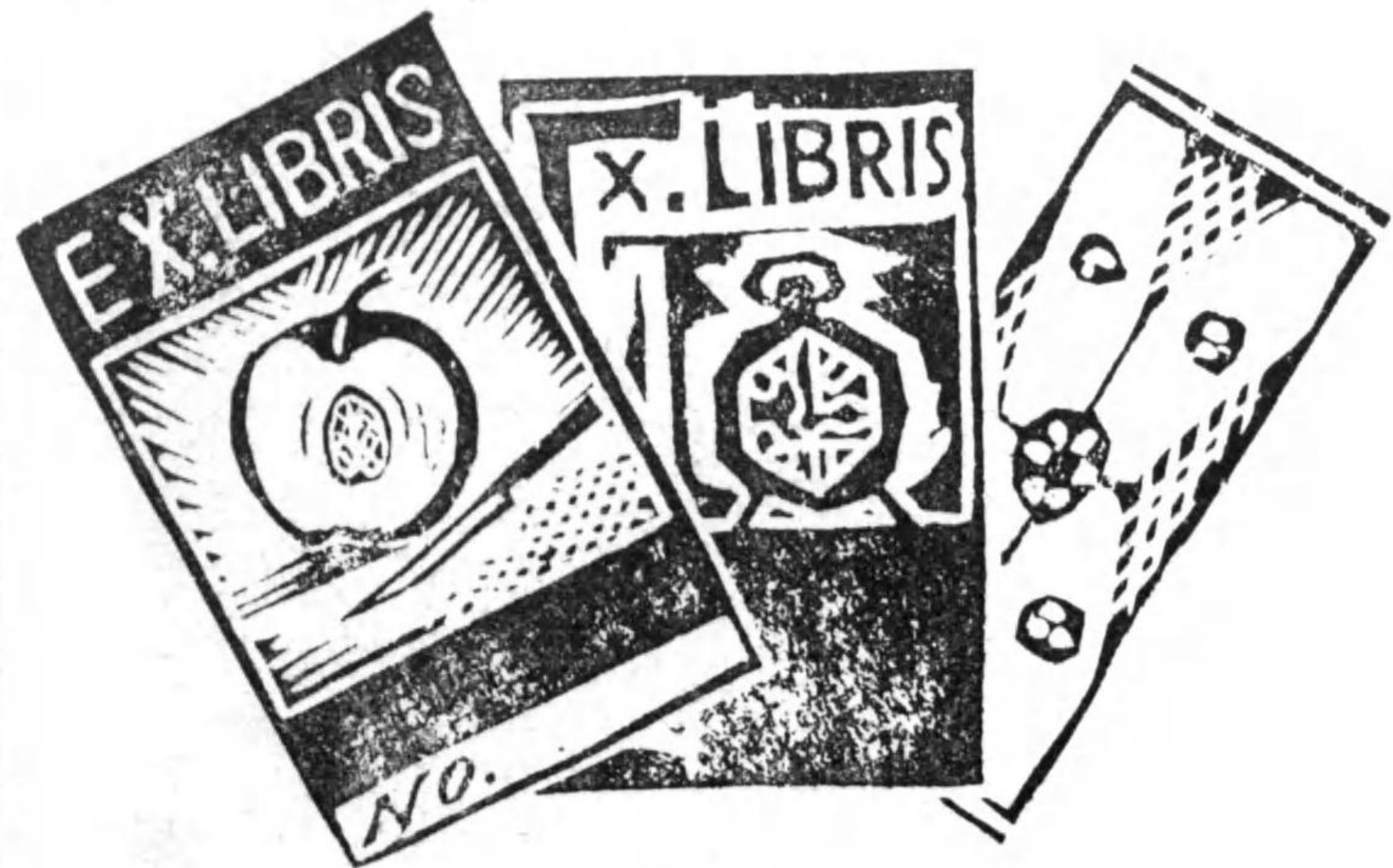
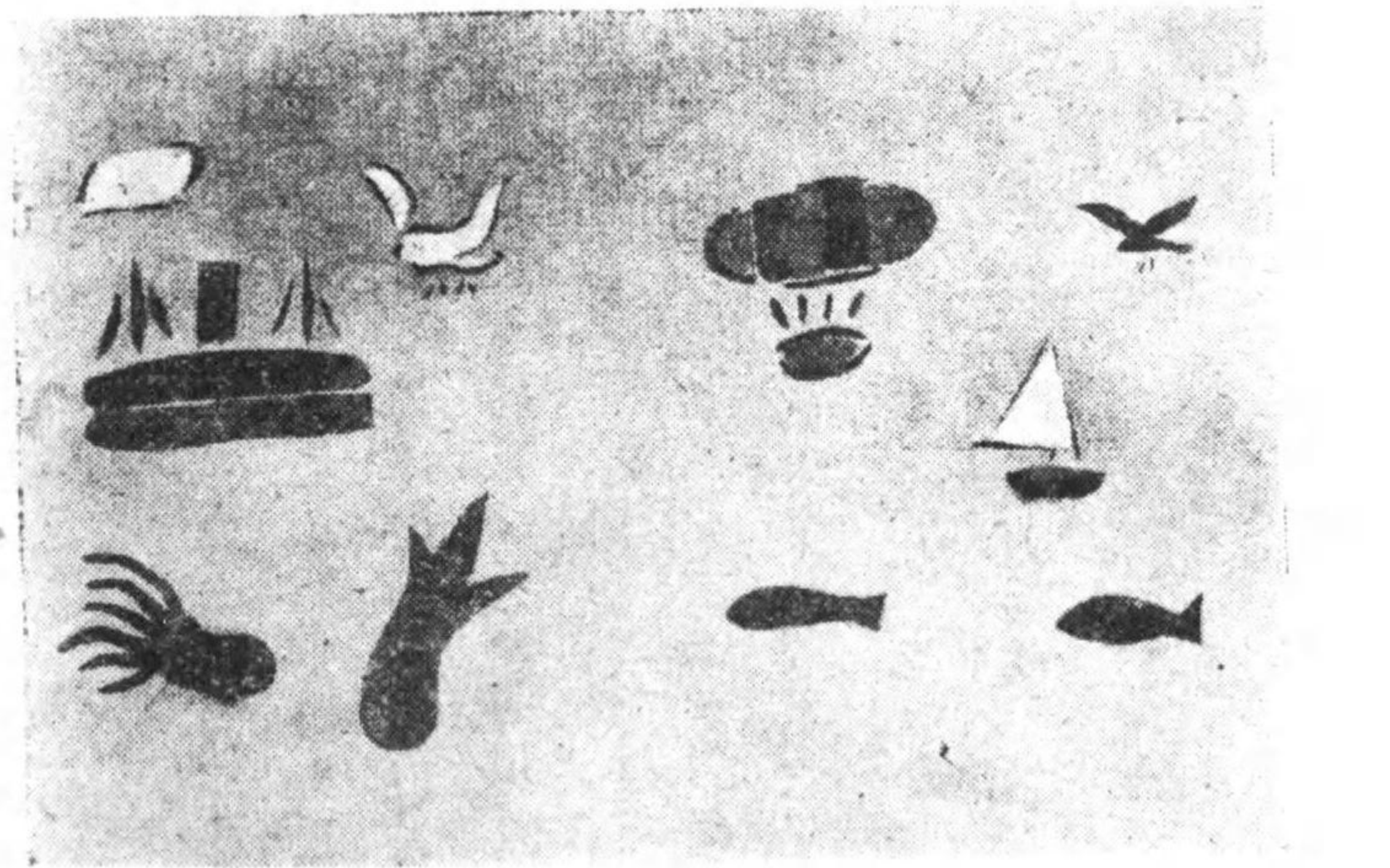
また芋版の効果も初めから終りまで同じ調子で明瞭に押せたものより、一見技巧としては拙いやうでも一つ一つに變化のあるやうな押し方をした、即ち模様が少しかすれ、氣味になつて版そのものゝ面白味を柔かく浮かす方がかへつて興味深く、立派なものとなる。

それからもう一つ色を幾度も上から上から重ねて押すことも面白く、たとへば花模様等とき、初め黒の輪廓花の上を赤で押し、更に藁の上に茶の色を押すと云つた風にすることである。





(二) 例作畫版用應
色染・彫木・工細皮



(一) 例作畫版用應

應用版畫について

むづかしい理窟を抜きにして、版畫を種々な手工藝に應用して見ることも仲々に楽しみで面白いものです。

先づ一寸考へて見たゞけで、どんなものが出来るでせうか。

この小冊子に掲げただけの種類を會得されただけでも、版畫をそのまま應用したものでは、先づ、年賀状や暑中見舞はいふまでもなく自作の繪葉書は勿論、仲間で出す雑誌の装幀やカット、等の本格的なものから作例にもせたエキス・リブリスや、ポスターやピラ、それから自家用の箋から封筒のデザインまで、思ひのまゝでせう。

次に只版畫刀をもつことや胸すきをつかつて木を彫つてゆくことの興味だけでも、いろいろなものが出来ます。つまり木彫りですが手工材料店で賣つてゐる丸盆や、小箱や、筆立や紙切りナ

イフの木材材に自分で模様づけをしてそれを彫つてゆく、それだけでも、面白い効果が得られませう。

手工材料店は都會の方々には便利ですが、それのないところは勿論近くの指物師か大工に圖を引いて形だけ作らせてそれに各自の獨創的な圖案をして彫るのです。用材は、朴、セン、桂、櫻等が彫りよく、チーク材等もいゝ用材です。朴はやはらかに彫り良い材料ですが、狂ひの多いので特に注意を要します。

菓子器や、たばこ箱もおもしろく、少し變つたのでは油繪を入れる額縁などに木彫で意匠として漆塗なり、澁、膠引きをするの等も面白いでせうし、いろいろな皮細工に應用すること等も思ひつきでせう。

次に版畫を染色に應用します。染色といつても、こゝでは只單に版畫を應用したといふだけの意味の極くかんたんなものだけをいふのです。

先づ木版をそのまま應用した更紗、これは版木に模様を彫りつけて、それに染料をぬつて布の

上に當て手なり木鐘で打つて強く摺りつけるのです。摺りつけるといふより壓しつけるのです。

これと反對に版畫の紙の代りに布を當て、その上から普通にバレンで摺つて、染料の用ひ方も木版畫の繪具と同様でいゝので、これは摺文といつてわが國でも有名で、大和で有名な法隆寺に法隆寺裂といつてこの摺文で墨一色を白木綿に摺つたものが残つて居りますが、これがまたなくよい味をもつてゐます。

話が一寸わき道へそれましたが、更紗を制作する場合には何よりも一脈の滋味を失はないことです。そこに更紗のもつ、よさがあるのです。

なほこのときの用材は朴或は桂がよろしく、木材の代りに、芋版をそのまま應用しても、よく芋版にはまた木版で味はへない別の面白味をもつてゐます。

芋版はまた、そのまま團扇の白地におしたり、ハガキ、カーテン、襖地等に應用してもよろし

50。

次には、版木でなしに合羽版の摺込染ですが、これは、前述の作り方のやうに、小刷毛或は丸

刷毛に色液をつけて、模様を切りぬいてある型紙の上から摺り込んで染める仕方で勿論從來の更紗染等に用ひられてゐるのですが、これ等尤も簡単な方法の一つでせう。いゝ落しましたが、染料は普通染物に使用するものでも、また顔料でもいゝのです。顔料の外に雲母刷やクレオン染の仕方等も扱ひ方によつては面白いものです。

それからこの版畫を應用した制作品を挙げますと、更紗で用ひられる範圍のことは云ふまでもないこと、風呂敷から半襟、手提袋、ハンドバック、電燈覆、ブックカバー、帯地、座布團、から小さいものでは紙入から、名刺、揚子入等、テーブル掛でも、カーテン、椅子掛でも、クッション、鏡掛、等々次から次へと果てしがありませんまい。

木彫りのところで一寸云ひましたが、木彫とこの染色以外に忘れてならないのは、この版畫を應用した革細工です。

この革細工も種々あつて仲々にむづかしいのですが、版畫を應用したものだけを挙げるとして

先づ、刀や駒すきで彫つてゆくには、どんな皮にでもといふわけには行きません。要點は淺い線彫りの出来る種類のものならいゝわけですが、何んにしてもその用材としての皮はかなり厚手のそして少し質の硬い目のものが適當します。

刀のきれ味のいゝものを用ひることは勿論で、殊にこの皮細工の場合等、その影響は甚だしく目立ちます。

次に皮に段を用ひる方法は、版畫の要諦をそのまま皮に移せばいゝのですが、この際の用皮は山羊のトコ皮とか小牛皮とかの類がよろしく、また合羽版をそのまま當てゝもいゝのです。

なほ木版をそのままきつく摺り込んで謂ゆる凸凹をつけた、肉附けをしてそれに着色等することも妙です。このときは濡れた皮の上に版木を當てゝ強く壓力を加へるのです。勿論皮は平かなものゝ上に伸ばしておくべきです。

版畫を皮細工に扱つて効果あるものでは、先づ紙入、ハンドバック、名刺入れから小さなテ

ブルセンターから、ブックカバー、銀貨入、手提、等でせう。

合羽版も前述の革細工は勿論、更紗染その他、襖紙等に應用して見ることも思ひつきでせう。

それからこれは直接版に關係はないかも知れませんが、紙を切り抜くことから思ひついて影繪や、切抜模様、切紙細工にまで及ぶことも興味のつきないことでせう。

以上、縷々作例を擧げて來ましたが、皆様の思ひつきなり工夫なりで、より以上な自由と廣さを生かすことです。

要はその人々の心の働きが大切であつて、決して技術だけが總てゝはないことです。

をはりに

この本の目的が誰れにでも容易く出来るといふこと、よんで會得をするよりも、眼から入れる實習を役目にしたので、こゝでは一切の理窟を抜きにしてこの稿を終ります。

しかしながら私がこの本の主旨を一層皆様にのみ込んで頂くためには、どうしてももつとくくわしい版畫についての主張なり、趣味なりを説き、合せて、家庭手藝への連絡を取る必要があつたのです。

また小中學校の手工科目としての教育上の希望なり意見なりも是非述べたかつたのですが、それは何れもこゝではは、ぶいて、只何よりもまづ實行をおすゝめします。この小冊子は、その實行への手引ともなれば、それで充分役目を果し得たことになるのです。

幸ひに皆様がこれ以上のことに興味を持たれたならば、拙著、「版畫の手ほどき」昭和五年刊 東京市日本橋區本石町、博文館發行若しくは、「創作版畫の作り方」昭和二年刊、東京弘文社發行の二著について見て頂くを得れば幸甚に存じます。

次に皆様の便宜のためにもと思つて、この冊子で述べた範圍で必要な各種の材料店をお知らせ致して居きます。但しこれは廣告をたのまれてするのではないのですから、何れも値段その他直接お問合せ下さる。

先づ版畫材料として初學者向のものでは、版畫刀と、駒すき、あいすきの三本それにバレンとハガキ大の板木二枚(?)を壹組にした便利なものが出来て居ります。場所は

東京なれば、三越、松屋、白木屋、松坂屋等のデパートは勿論ですが、

東京市小石川區關口駒井町三 春鳥會

東京市神田區神保町二 文房堂

大阪市南區心齋橋北 同支店

福岡市博多川端町一三 同支店

大阪市南區心齋橋筋一丁目 河内洋畫材料店

京都市河原町蛸薬師上ル 畫箋堂

等で、その他の木工用の木地とか皮細工の材料等は、

東京市日本橋區江戸堀二ノ七 東京手工屋鬼頭輝一商店

東京市下谷區上根岸郵便局前 學校美術協會代理部

が便利ですし、染色手藝用の重寶な染料は

東京市日本橋區小舟町 桂屋商店

がよろしい。こゝだけは、家庭染料みやこ染本舗並びに手藝用アルス染料の發賣元として有名でことにこのアルス染料は、今日の手藝には全く便利です。敢て推賞します。

以上の他、リノリウムや合羽版の用紙等大抵のものは前記の學校美術協會か、東京手工屋のためばよろしく、また、多少専門的に版畫(木版畫)をやつて見たい方のために、その道具や何か一切を責任もつて親切に世話してくれるところとして、

東京市京橋區松屋町二丁目四番地

日本美術版畫相談所々長 田口喜久松

氏を御紹介します。

なほ著者自身へ直接お問合せの方は、發行所氣附もししくは、

東京市外矢口町蓮沼二四一

旭 正 秀

宛に願ひます。

以 上

こゝに新しい一つの試みとして、餘白數頁を残しました。

この本をよんで感じられたこと、或は皆さんの思ひつきなり、材料店の覚え書、または、模様圖案の下繪等、何んでも、ノート代りに御使用下さい。

この本がそうして、皆様の手で有効に利用されることは、やがて、版畫が皆様の心の糧の一つとなる時であります。

版畫實習讀本

定價 五拾錢

昭和七年七月十五日印刷
昭和七年七月十七日發行



著者 旭 正 秀

發行者 東京市豊田町區飯田町六ノ八一
松 本 清 太 郎

印刷者 東京市京橋區西八丁堀一ノ四ノ四
齋 藤 廣 吉

發行所

株式會社 東京市豊田町區飯田町六丁目
內 外 社

電話 九段三六六二
振替東京七六八四九番

(圖書目錄御申込進呈)

大津繪

旭正秀著

新菊判本文二二〇頁
原色版一葉
銅版二十九葉
挿繪寫真五面
定價二圓五〇錢
送費二〇錢

大津繪に就いて——無名の畫工達の單調な數限りない繰り返しが何時の間にかその技術の熟練の元となり、その上に、それを描くときの態度が全く無意識と安全な迅速さから、今日観る驚く可き美と魅力とを生んだのである。即ち今日大津繪には後世にその眞價を問ふが如き匠氣がないとか、大津繪にはこれ見よがしの衒氣を認めないとか云つて、大方から賞讃される所以である。

つまり大津繪はその間たつた一人でそのレベルを自分の力で高めて來たのであるとも云へやう。私はこの大津繪を徳川期に残されたわが國の平民の智慧と、情緒の天眞の表現の一つとして、飽く迄その美と本質を闡明して、日本がもつ繪畫藝術中の誇りの一つとして新しい價値と新しい生命を呼び醒ましたく思ふのである。

(本文より)

◇裝禎—長野農民工藝會作品(草木屋製)手漉純日本紙の表紙と箱貼特上製

東京電振
市話九段
町三丁目
飯田六丁目
目六四

行發社外内

263₃
313

267
642



終

